

## 高齢者のドライマウスのメカニズムと その対応を簡潔にまとめた手引き書



### 高齢者のドライマウス 口腔乾燥症・口腔ケアの基礎知識 阪井丘芳 著

B5判/60頁 定価：1,900円＋税  
医歯薬出版（2017年6月）

大阪市非常勤嘱託職員  
評・泉井英子（歯科衛生士）

「老いるとはかわくことである」、本書の著者である阪井先生がある市民健康講座で開口一番にこう言われたとき、会場はどよめきました。「ドライスキン」「ドライアイ」「ドライヘア」、そして「ドライマウス」は、歳を重ねるとよく耳にする言葉ですが、会場にいた高齢者の皆さんも思い当たる節があるのか、先生の言葉に大きく頷き、隣の人と「私もそう」とささやき合う声があちらこちらから聞こえてきました。

ドライマウスを自覚する人は少なく、主治医から病名を告げられてはじめて自分自身がそうだと知る人も多くいます。以前、高齢者が多く入院している病院で口腔ケアのために病室をラウンドしていたとき、ドライマウスの患者さんの多さに驚いたことを鮮明に覚えています。どの病室も独特のにおいが充満していましたが、

口腔ケアの不足だけではなく、ドライマウスによる口腔内症状が口臭を強くしていたためでしょう。またの方にもなんらかの全身疾患があり、服用薬の副作用によってドライマウスが生じている可能性も考えられました。

当時、その病院の院内勉強会で看護・介護職の皆さんに口腔ケアを教えるなかで、ドライマウスについても話をさせていただく機会がありました。そのときは阪井先生の前著「ドライマウス～今日から改善・お口のかわき」を教科書のように何度も何度も読み返し、その内容を引用し説明することで、看護・介護職の皆さんにはドライマウスの原因・対処方法・ケア・改善に関する理解を深めてもらいました。そして入院患者さんはもちろん、ご自身の口腔ケアとドライマウスの改善にも取り組んでいただくことができました。

今回ご紹介する本書はドライマウスに関する基礎知識だけでなく、各項目の内容がより深く、わかりやすく解説されています。そのうえイラストも多くて読みやすく、一目で理解しやすい本です。私は、通勤電車の中で一気に読むことができました。学生時代に本書と出会っていれば、これまで知らず知らずのうちに見過ごしてしまっていたであろう多くのドライマウスの患者さんを支援できたのではないかとすこし悔やまれます。そして、介護職を中心とした他(多)職種向けの研修会でドライマウスと口腔ケアのお話をさせていただく際、本書も私にとって教科書であり、手放せないツールとなっています。

本書は、これからドライマウスについて基本を学び、一人でも多くの方を支援したいと思っている歯科医師・歯科衛生士はもちろん、他医療職の方々にとっても必読の1冊です。また、待合室に置けば、患者さん自身に手にとり読んでいただくことで、症状の軽減・改善の促進につながると思います。